



10 2023

発行所 大阪市中央区玉造2-24-22 カトリック大阪大司教区 広報委員会 郵便番号 540-0004 TEL (06) 6941-9700(代表) TEL (06) 6946-3223(直通) FAX (06) 6946-3224(直通) E-mail: jiho@osaka.catholic.jp 編集 広報委員会 発行人 前田万葉

本紙「点訳版」「音訳」あります。〈無料〉 ※ご希望の場合は下記まで申込み 「点訳版(点字本)」 時報 ☎06-6946-3223(直通) 時間 ☎06-6946-3224(直通) 「音訳(テープ・デジ)」 山口さん ☎0798-34-4228

- ☆ 平和旬間報告 (2画) ☆ 青年と子どもの錬成会 (5画) ☆ 教区教員養成会 (3画) ☆ 司牧者から若者たちにこの一冊 (6画) ☆ 諸宗教対話委員会 第一回〜3回 (4画) ☆ 信仰の時間 ヌノリマ神父 (6画) ☆ 元和大殉教って何? (5画) ☆ ガラシア健康だより (7画) ☆ 広報委員会へのEメールアドレス=jiho@osaka.catholic.jp

『時報』原稿・資料等の締切は前々月末です。

大阪高松 大司教区設立に向けて

8月15日の教皇フランシスコによる新教区設立の発表を受け、大阪教区で働く司牧者に向けて8月31日に臨時の月修が開催され、新教区設立の報告と経緯が前田万葉大司教から説明され、統合に向けたプロジェクトについて酒井俊弘補佐司教から話があった。

大司教から経緯の説明

これまでの大阪教区と高松教区をそれぞれ解散して、同じ地区において「大阪高松大司教区」を設立することが発表された。

教皇フランシスコから、初代教区長の任命を受けた。設立・着座式をもって新教区としての歩みが始まる。

実は昨年からの統合に向けたアンケートなど歩みが始まっていた。それでも発表は来年ぐらいかと思っていたら、早かった。

8月15日発表というタイミングはちょうど良いと感じた。なぜなら、高松教区の司教座聖堂である桜町教会は被昇天のマリアにささげられた聖堂だから。

東京教区 パウロ森一弘名譽司教帰天



森一弘名譽司教は9月2日、上部消化管出血のため、東京通信病院(飯田橋)で帰天。84歳。横浜市出身。1967年司教叙階(ローマにて)。77年関口教会助任主任。

84年東京教区補佐司教に任命され、85年司教叙階。同年真生会館理事長に就任。2000年東京教区補佐司教退任。

酒井司教から 準備会について

いよいよ新しい大司教区が生まれ、スタートする。両教区の司教叙階は、10月9日に新大司教区司教になる。教区内で使っているメールのドメイン等はできるだけ早く新しくする。しかし、新大司教区が誕生

発表後、新しい大司教区の着座式を2カ月以内に行う必要がある、その決定のために大阪教区の顧問会、高松教区の司教評議会で見交換を行い、合意を得てロザリオの聖母にささげられた教区設立と着座式を10月9日(月)、玉造の大阪聖マリア大聖堂で行うことに決めた。適当な時期に高松教区でも記念ミサを行う。(11月11日(土)予定)

今回の統合は、吸収合併ではない。大阪教区と高松教区を基盤とした新しい教区の設立である。高松教区を訪問し、司教や信徒の方々と話す中で、今回の統合はシノドス的な機構改革という意味で、シノドスとの関連を強く感じた。

これからのことだが、新大司教区へ準備会を設立し、酒井補佐司教を座長として、さまざまな問題に対処してゆきたい。

すると、実際に活動が始まるまでにはタイムラグがある。たとえば、現行の顧問会や司教評議会はなくなるが、新しいメンバーが選出されるまで、地区割りをどうするかなどさまざまなことを決めることができない。また、宗教学者に関連することも、文化庁と交渉する必要がある、いつ変更できるかわからない。統合に向けては組織面と行面との課題がある。組織

面では、委員会などに違いがあるが、統一してゆきたい。その際、実務にかかわる者が話し合っすり合わせるのが良いと思う。行面では、今年度は基本今までの通りだが、大阪教区で行われるものでも、できるだけ高松教区に参加を呼びかける。24年度をどうするかはこれから考える。

ルで日本巡礼団のみんなと踊った「ソーラン節」は一体感を感じました。リスボンでの本大会は、基本的にグループに分かれての行動でした。僕のグループは国際交流が好きな人が集まっていて、道行く先で色んな国の人に話しかけ、写真を撮ったり連絡を交換したりしました。日本の国旗と公式巡礼団の法被が威力抜群で、こちらから話しかけなくても、次から次へと話しかけられました。そして教皇ミサ。ミサ会場までの徒歩巡礼が最も過酷でした。みんなで支え合って乗り切りました。

WYDでの2週間は、祈って歩いて、歌って踊って、笑って泣いて。そんなたっぷりの愛と慈しみを分かち合った日々でした。年齢や出身は違えども、キリスト者という仲間として苦楽を共にし、自分と同世代の信者が日本中・世界中にたくさんいることを実感して、若者のキリスト者として歩んでいく励みになりました。

7月26日から31日までの6日間、コインブラという地でホームステイを過ごした。私は、修道院にお世話になることになった。そこでは本当に良くしていただいた。何か手伝おうとすると「座って食べていて」と言ってくれたり、私が何

WYD(ワールドユースデー)の日々は、毎日が刺激的でした。コインブラでの教区の日々では、地元のスカウトの子たちとのアクティビティを通じて、コインブラの街を知りました。アクティビティの前に自然と始まる、歌やダンスがとても楽しかったです。気がつくとも自分も参加していました。ユースフェスティバ

面では、委員会などに違いがあるが、統一してゆきたい。その際、実務にかかわる者が話し合っすり合わせるのが良いと思う。行面では、今年度は基本今までの通りだが、大阪教区で行われるものでも、できるだけ高松教区に参加を呼びかける。24年度をどうするかはこれから考える。

WYDでの2週間は、祈って歩いて、歌って踊って、笑って泣いて。そんなたっぷりの愛と慈しみを分かち合った日々でした。年齢や出身は違えども、キリスト者という仲間として苦楽を共にし、自分と同世代の信者が日本中・世界中にたくさんいることを実感して、若者のキリスト者として歩んでいく励みになりました。

今回、私にとって初参加となったワールドユースデー。全体を通して実感したことは、人と人との繋がりの大切さだ。暖かく声をかけ合い、支え合い、助け合った大会だったと感じる。真剣に自分と向き合うことが出来て、真剣に祈ることが出来て、自分が豊かになったと感じる大会となった。

WYD Lisbon 2023 ワールドユースデー

7月26日から8月6日まで、ポルトガルのリスボンを中心にワールドユースデーが開催されました。

コロナ禍で1年延期となりましたが、世界中から約150万人が参加しました。大阪教区からは神学生を含めて8人が参加しました。それぞれが国際的な交わりをとおして自分の信仰を見つめなおす良い機会となったと思います。

今回は2027年にお隣の韓国で開催されます。たくさんの青年たちの参加を待っています。(青少年委員会 委員長 春名昌哉)



行動グループの皆と(リスボン)

7月26日から31日までの6日間、コインブラという地でホームステイを過ごした。私は、修道院にお世話になることになった。そこでは本当に良くしていただいた。何か手伝おうとすると「座って食べていて」と言ってくれたり、私が何

面では、委員会などに違いがあるが、統一してゆきたい。その際、実務にかかわる者が話し合っすり合わせるのが良いと思う。行面では、今年度は基本今までの通りだが、大阪教区で行われるものでも、できるだけ高松教区に参加を呼びかける。24年度をどうするかはこれから考える。

今回、私にとって初参加となったワールドユースデー。全体を通して実感したことは、人と人との繋がりの大切さだ。暖かく声をかけ合い、支え合い、助け合った大会だったと感じる。真剣に自分と向き合うことが出来て、真剣に祈ることが出来て、自分が豊かになったと感じる大会となった。



お世話になったコインブラの修道院

か困っていることがあるとすぐに手伝ってもらったりして、移動する際にファティマを経由し

大阪教区 典礼研修会 今あらためてミサを味わうために 司式者の所作の意味・奉仕者の役割・会衆の参加 ~感謝の典礼を中心に~ 主催:大阪教区典礼委員会 講師:パウロ 酒井俊弘 補佐司教 2023年10月29日(日曜日) 2時から4時 サクラファミリア(カトリック大阪梅田教会) 聖堂にて 事前お申込み不要・どなたでも受講できます

(文 玉造教会 田中愛称)



2023 平和旬間



「希望をもってともに歩む Let's hope and walk together

～あきらめずに目を覚ましてStay awake, never give up～

8月の平和旬間に大阪大司教区内の各小教区で、さまざまな催しが開かれ、多くの小教区からその報告が届きました。これまでにない猛暑のなか、平和旬間のテーマに沿って各小教区でアイデアが練られ、工夫が凝らされ、ともに平和への思いを新たにしたい様子が見られました。10月号と11月号で、各小教区からいただいた報告の抜粋をご紹介します。皆様の各小教区で、今後の平和旬間や平和への取り組みを考える際のヒントにご活用いただければ幸いです。

報告の詳細は、後日「平和旬間報告集」にまとめて、各小教区にお送りする予定です。

◆**姫路西ブロック** 8/12(土)、5教会(網干・たつの・飾磨・相生・赤穂)の合同開催。レネ神父の講話を聞き、感想を自由に分かち合った後、ミサをおこなった。平和の意識を刷新するにはこのような集まりを開くことが効果的だと感じた。平和を選ぶには、子どもの頃から平和教育や平和を願う祈りが欠かせないとの声もあった。

◆**豊岡** 8/6(日)、「平和を兄弟姉妹とともに考え見つめ合う集い」のテーマで、「ヒロシマ・ナガサキ核戦争のもたらすもの」のDVDを鑑賞し、分かち合いを通じてともに平和を考えたい。若い方の参加が無かったのだが、戦中派の方の戦争の実体験を聴くことができた。平和への問題意識が全体に浸透している空気を感じた。

◆**仁豊野** 8/6(日)、「ともに考えよう 平和への道」のテーマで、戦争体験談を掲示し、平和祈願ミサで奉納した。戦争体験談「学徒動員の日々」や「一本の鉛筆」という詩の朗読を聞いた。ベトナム人の参加者が増えているので、両方のことばで聖歌を歌った。二度と戦争を起こしてはならないとの思いがわいた。



◆**佐用** 8/6(日)と8/9(水)に祈りをささげて教会の鐘を鳴らした。8/19(土)は、『ETV特集・市民と核兵器～ウクライナ危機の中の対話～』の録画を見て、平和について分かち合った。原爆忌と終戦の日教会の鐘を鳴らすことは、小さな教会でもできる平和活動だと感じた。



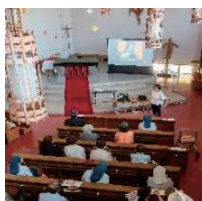
◆**姫路** 8/6(日)に「火垂るの墓」、8/13(日)に「島守の塔」を上映した。子どもたちと大人と一緒に映画を観て、平和へのメッセージを書いてミサで奉納した。どちらの映画もわかりやすく、戦争や平和を考える上で役立った。被爆国日本が核兵器の廃絶と戦争のない世界の実現のためにリーダーシップを取る立場であるのに、残念だと感想があった。



◆**加古川** 8/6(日)、平和祈願ミサで聖フランシスコの平和の祈りを祈るよう呼び掛け、平和へのメッセージを奉納した。各家庭からうちわを持ち寄り、支援金とともに釜ヶ崎の「出会いの家」に贈った。難民移住者を支援するシナピス工房の製品も完売できた。



◆**垂水** 8/6(日)、講演会「難民は平和を知っている～難民との共生を目指す大阪教区の取り組み～」(講師:ピスカルド篤子さん)を実施した。野宿者支援炊き出しチームによるカレーライスを食べながら、講師を囲んでシナピスの取り組みや難民の現状を知った。社会活動的な視点を、日々の活動の中に取り入れていくことの大切さを学んだ。



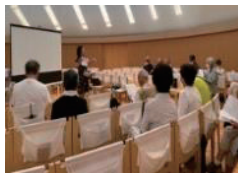
◆**六甲** 8/6(日)、西宮クロスロード教会の千東史和牧師と浄土真宗本願寺派万徳寺坊守の谷川美加さんをお招きし、宗派や宗教を越えた平和への思いを聞き、ともに祈った。宗教は違っても平和を希求する思いは同じで、カトリックの中に留まらず、他の宗教・宗派ともつながりを作るべきだと思った。



◆**洲本** 8/6(日)、各国語で書いた平和の祈りを「平和の木」に貼り付け、皆で平和への願いを新たにしたい。3人の戦争体験者から空襲や引き揚げの話や戦争の恐ろしさを感じた。今のウクライナの状況と重なり、現在起きている戦争や紛争の一刻も早い解決を望む感想があった。



◆**たかとり** 8/20(日)、「神戸在住ベトナム人の背景と状況」をテーマに、難民として日本に定住している講師の体験を聞いた。また、その後に来日し定住しているベトナム人の現状や技能実習生が置かれている状況を知り、難民や定住者との相互理解に向けた機会になったと思う。



◆**鈴蘭台** 9/3(日)、ウクライナから神戸に避難して来られた、元バレリーナのヴィクトリアさんをご家族を教会に招き、避難までの経緯や避難生活についてのお話を聞いた。避難者の生の声を聞いて、参加者の反応は予想以上に大きかった。また困難ななか、彼女がウクライナの子どもたちに送金されておられることにも感銘を受けた。



◆**住吉** 8/6(日)～8/15(火)、「戦争は死です」をテーマに世界地図を掲示し、戦争や内乱が行われている地域を選んで、日常的に祈り過ごすことを提案した。地図の傍らにはウクライナの教会にあった聖櫃を設置し、世界情勢を知ることで、祈りを深めた。



◆**神戸中央** 8/5(土)、ブレース神父から母国コンゴ民主共和国の子どもたちのお話を伺い、写真を見ながら平和について考えた。今も続く武力衝突や難民の話、原爆投下、原発、気候変動による災害、貧困と食糧危機、差別などの問題に思いを巡らせた。平和ミサの後、上記の理由で尊い命を失った人々の鎮魂のために、一人ひとりが蝋燭を灯して焼香した。



◆**芦屋** 8/5(土)、芦屋市役所北側広場で芦屋聖マルコ教会や市民の皆さんと、「平和の祈り」をおこなった。8/6(日)はチャリティコンサート、8/20(日)はウクライナ支援のダンスパフォーマンスを開催し、ウクライナから兵庫県に避難しているバレエダンサーの活躍ぶりを紹介する動画も上映した。



◆**夙川** 8/6(日)、終戦時に子どもだった3人の戦争体験者によるお話し会と分かち合いを行った。40代以下の参加者が少なかったことから、戦争体験を語り継ぐことの難しさを感じた。お話しは、ホームページからも視聴できるようにした。また、平和への思いを日記のように毎日綴り、ピースツリーに貼っていく当教会の取り組みは、3年目を迎えた。



◆**甲子園** 8/13(日)、保護司の方々から活動内容やなぜ保護司としてボランティアで活動するのかなどを話していただいた。罪を犯した方が更正される時、地域社会の理解を得るために、保護司の役割がとても大事であることの理解を深めた。

◆**仁川** 8/5(土)～8/13(日)、2週にわたって平和祈願ミサを捧げた。原爆投下時刻に教会の鐘を鳴らし、祈りを捧げた。6日は「日本国憲法のこのころ」と「平和への誓い」の朗読、13日は「アンネのバラの教会」の坂本誠治牧師や信徒の方々をお招きし、教派を越えてともに祈り、聖コルベやアンネの生き方を学んだ。



◆**宝塚** 8/11(金)、片柳弘史神父による平和祈願ミサと「すべては祈りから～マザー・テレサに学ぶ平和への道」のテーマで講演会を開いた。マザーとの直接の触れあいのなかで実感された体験談から、自分も神様から愛されていると実感することで、隣人を愛することができる気づきを得ていただいた。



◆**園田** 8/13(日)、ミサ後にNHKスペシャル「ヒューマンエイジ 戦争 なぜ殺し合うのか」を鑑賞した。自分の仲間は大切に、他者は排除することから戦争は始まる。日々の生活の中で他人を思いやる心を持つことの大切さを学んだ。



◆**尼崎** 8/6(日)、祭壇前にマリア像を移動し、平和をテーマにして子どもたちが描いた絵をマリア像の前に展示した。「平和を求め祈り」とロザリオ一連を唱え、子どもたちが「平和の道具にしてください」を合唱した。閉祭の言葉で、司祭が平和を力強く呼びかけた。



◆**日生中央** 8/13(日)、手話で「キリストの平和」を合唱。絵本「さがしています」の上映と朗読。富神父の「カトリック平和の教え」の講話の後、平和祈願メッセージをボードに展示した。戦争は人間の悪が大きくなったもの。そうならないために一人ひとりが挨拶をし、隣人を大切にするようにしたい。



◆**箕面** 8/13(日)、「廃品回収を行う人たちとともに歩む」をテーマに、「毎月暁光会に送っている空き缶や段ボールがどのように役立っているか、改善点はあるか」等、暁光会で取材したことを分かち合った。また、この活動を始められたバラード神父のことや、神父に影響を与えた北原怜子さんやゼノ修道士の活動を学んだ。



◆**池田** 8/6(日)、平和祈願ミサ後、故中村哲医師のアフガニスタンでの用水路事業の記録DVD「用水路が運ぶ恵みと平和」を鑑賞し、分かち合った。中村医師は、武器ではなく農具によって地域に平和をもたらすことを証明した。武器に頼らない平和のすばらしさに気づいた。



◆**高槻** 8/6(日)～8/15(金)、各自が祈りのことばを短冊に書き、聖母被昇天ミサで奉納。ミサでは、教皇メッセージから抜粋した文を配布し、立て看板に祈りのことばを掲示した。「祈りのことば集」として印刷して配布した。



◆**吹田** 8/6(日)はテゼの歌による祈りの集い、8/13(日)は、ロザリオの祈りや平和を願う祈りに役立つ画像を見ながら、心を合わせて祈った。人との交流が小さな平和となり、それがやがて大きな平和になることに気づいた。



◆**大阪梅田** 7月から各国語で作っていた平和メッセージボードをミサで奉納。8/6(日)は『Hola! 出来島!!』の鑑賞会。8/13(日)は平和をテーマにした絵本の読み聞かせ。8/20(日)は、いろいろな文化を持った方々の交流パーティ(食事やダンスなど)を開いた。



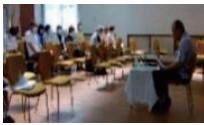
◆**関目** 8/6(日)、8/13(日)、「不安を吐き出し、平和を積み上げよう～キーワードは『愛の反対は無関心』～」というテーマに沿って、各自が祈りの言葉を考え、ミサで奉納した。すべての人が参加できるように工夫して企画した。ミサ後の茶話会では田仲仁さんの演奏を聴き、田仲さんのチャリティコンサートへの参加を呼びかけた。



◆**今市** 8/6(日)～8/15(火)、自宅毎日平和のために祈った。13(日)は、「荒野に希望の灯をともし～医師・中村哲 現地活動35年の軌跡～」のDVD鑑賞をし、中村さんの遺志を受け継ぐ人々の思いを考え、この1年間に亡くなった方の遺影を祭壇前に置いて、合同祈念祭をおこなった。この祈念祭は毎年お盆の時期に実施しているため、平和旬間の行事に入れた。



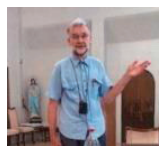
◆**門真** 8/13(日)、ミサで平和旬間の意義を知り、ミサ後に高山右近の生涯をDVD鑑賞し、元・右近と歩む会の三島克己さんに講演いただいた。当教会では主日ミサで「福者ユスト高山右近の列聖を求め祈り」を捧げており、右近を通して平和を願い、8月を「平和」がテーマのロザリオ月間とし、ミサ前にロザリオの祈りを唱えた。



◆**大東** 8/13(日)、平和への願いを短冊に書いてオリーブの枝に付けて奉納。憲法9条の理念を米国側に伝えた幣原首相についてのDVD「しではら」を視聴し、分かち合った。絵本「戦争の作り方」も参考に、平和を作るために自分たちにできることは何かを考え、



◆**香里** 8/6(日)、「カトリック教会と環境一私に何ができるか」と題して、聖コロンバン会のマッカーティン神父の講話をお聞きした。当教会では昨年度から、環境問題についての勉強会が続いてきた。戦争が一番の環境破壊であるという観点から、この問題についてもっと関心を持ってほしかった。多くの方が参加された。



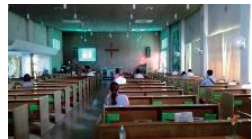
◆**枚方** 8/13(日)、入管行政の下で困窮する外国人を支援し続けている、長澤正隆終身助祭(北関東医療相談会事務局長)の活動を紹介したDVD「私のガリラヤを生きる」を視聴。参加者の思いを書き留めて、聖母被昇天ミサで奉納した。参加された方々が、「自分にとってのガリラヤ」でのスモールスタートにつながる一助となったようだ。

◆**大阪田辺** 8/6(日)、1945年7月にこの地に投下された模擬原爆について、地域で模擬原爆の実相を伝えるために活動しておられる方を講師に招いた。地域では以前から、模擬原爆の犠牲者への慰霊祭が行われ、多くの子どもたちが参加している。今回は、模擬原爆を語り継ぐ会の協力で実現した。これを機に、地域の人たちとも連携をとっていききたい。



◆**藤井寺** 8/6(日)、平和祈願ミサ後、今市教会の三島克己さんから「日本の歴史的事実を追う二度と過ちを繰り返してはならない」というテーマで講演をお聞きした。三島さんは、戦後経済の絶望からカトリックの信仰に出会い、反戦・平和活動を続けられた。日本が戦争に向かっていくプロセスがよく分かったなどの感想があった。

◆**堺** 8/13(日)、平和祈願ミサ(司式・カレンガ神父)の後、ベトナム戦争のビデオを上映した。遠く戦争は現地での残虐行為の実態が伝わらない、戦地に行くのは若者だ、国民は翻弄されるだけではないか、などの感想があった。



◆**金剛** 8/13(日)、集会祭儀後、DVD『軍隊がいた島』の上映会をおこない、沖縄・慶良間諸島での「集団自決」や、「従軍慰安婦」たちの写真から、戦争の悲惨さ・残酷さを思い知らされた。風化しつつある戦争の悲惨を伝えていく義務があるなどの感想があり、いのちの尊厳について考える恵みの時となった。



常に考えるテーマでさまざまな意見を分かち合うことができた

2日目、朝の祈りの後、香里ヌヴェール学院小学校副校長の西村佳也先生から講話があった。私立学校と公立学校の現状についての話のあと、なぜ先生になったのか、なぜカトリック学校を選んだのかとの問いかけがあり、「やりたいこと」と「与えられること」は異なることがあるが「神様が私を

使ってくださいました」という思いに至った話があった。2日間のプログラムで3回の分かち合いがあった。日々の児童・生徒との関わりを共に

有しながら「カトリック学校の使命・教員として何ができるか」というテーマで意見がなされた。

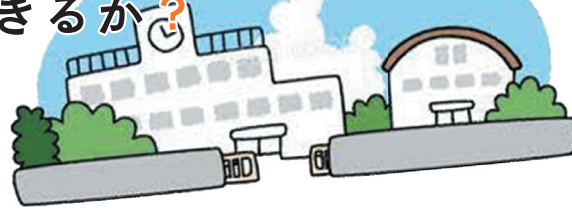
一人ひとりを大切にしたい、生徒の豊かな心を育むように努めたい、人とのつながりを大切にしたいという意見があった。また、卒業生として講演した富和さんが、担任の先生が神父様であったことが大きかったと強調されていたことを挙げ、今後は自分たちが神父、シスターに代わってカトリック精神を伝えなければならぬことについて、厳しい表情で語り合った。

さまざまな方の協力があり、コロナ禍の前とほぼ変わらず養成会を開催することができ、感謝している。養成会参加者が養成会で得たことを、各学校生活でいかしてもらえればと思う。

(文) ヴェリタス城星学園 中学校・高等学校教諭 榎麻規子

第14回 カトリック学校教員養成会

カトリック校で働く使命・教員として何ができるか?



8月9・10日(水・木)、第14回カトリック学校教員養成会がサクラファミリアで行われた。大阪教区、名古屋教区の小中高校から18校、30人の参加があった。

カトリックの理解者・後継者の養成を目的としこの養成会を開始して14回目を迎えた。教区教育推進委員会委員長、高島政行神父のあいさつと養成会の趣旨説明から研修が始まった。仁川学院小学校の前川和裕元教諭からある教え子との出会いと別れを通して、「共に生き、意味について気付かされたことやこれからの教員に求められることについての話があった。

明星中学校・高等学校卒業生で現在、医師をされている富利清訓さんは「今になって感じるカトリック校の良さ」について語った。中学生で阪神・淡路大震災の災害ボランティアに参加し学んだ「できることを考えよう、求められることをしよう」という姿勢が、現在所属しているDMAT(災害派遣医療チーム)での「何をしたいか、ではなく、求められることをしてください」という姿勢と重なることと語り、思春期にいろいろなることを体験し、知っておくことは大切であると話された。



養成会を終えて新たな気持ちで教壇に向かう教職員

諸宗教対話委員会 神に向かって皆がより深く回心する

やっとコロナ禍が収まり、再び諸宗教対話委員会は通常通り今年度の活動計画を立てることができた運びとなった。今年度のプログラムは前半と後半に分かれており、前半は4月～6月に3つのイベントが行われた。後半は11月から翌年の2月に4つのイベントを予定している。

4月のイベントは、仏様の生誕祭(花祭り)に因んで、仏教との対話に充てられた。今回は臨済禅に注目して、4月29日に臨済宗妙心寺派の梅松院を訪問した。参加者は20人以上だった。



梅松院の副住職であられる本多道隆様と御家族の皆さまが私たちを温かく迎え容れ、本殿に案内してくださった。挨拶の後、本多副住職がお釈迦様への御勤めをあげてくださった。その後、カトリックの祈りが行われ、次に、大阪大司教・前田万葉枢機卿殿下の代理として当委員会委員長長ロッコ神父が挨拶し、教皇庁諸宗教対話省から仏教の方々への「花まつりに際してのメッセージ」を本多副住職に手渡した。その後、本多副住職が臨済禅について講演され、それをきっかけに、キリスト教と仏教の霊性についてたいへん興味深い対話が展開された。

5月のイベントは、司教館で諸宗教対話に関するカトリック教会の教えについて

5月のイベントは、司教館で諸宗教対話に関するカトリック教会の教えについての講演会であった。講師は当委員会委員長ロッコ神父、テーマは「新約聖書と諸宗教対話」だった。これは2019年に行われた「旧約聖書と諸宗教対話」の続きである。講師は聖書からいくつかの箇所を読み上げ、イエスや初代教会が異邦人に対してどのような態度を取ったかを説明し、キリスト者が他宗教の

6月のイベントは、日本の新宗教との対話として1892年に創立された「大本」の大阪本苑を訪問した。

6月のイベントは、日本の新宗教との対話として1892年に創立された「大本」の大阪本苑を訪問した。参加者は約25人だった。4週目の土曜日だったため、「乙姫様月次祭」が執り行われており、60人以上の大本信者方々と一緒に祭典に参列することができた。1時間ほどの祭典の後、当委員会委員長が訪問団を紹介し、諸宗教対話委員会の目的や活動について短い説明をした。次いで、本苑長伊藤忠茂様から「大本」とその活動についてのお話を伺った。質疑応答の時間が続き、最後に、大本の方々の交流の時間を持ち、解散した。大本の方々の歓迎は本当に温かかった。



信者に対してどのような考えや態度を取るべきかを考察した。参加者は約45人だった。その中にはプロテスタントやモルモン教徒、立正佼成会や白光真宏会などの方々もおられた。委員長の訪問団を紹介し、諸宗教対話委員会の目的や活動について短い説明をした。次いで、本苑長伊藤忠茂様から「大本」とその活動についてのお話を伺った。質疑応答の時間が続き、最後に、大本の方々の交流の時間を持ち、解散した。大本の方々の歓迎は本当に温かかった。

当委員会が始まってこれまでの6年間、毎回の活動において諸宗教対話について学ぶことができ、他宗教の方々と出会う機会となり、多くの祝福がありました。今年度のプログラムの後半はパンフレットに記載されている通り、11月から2月まで行われます。多くの方々に参加していただき、諸宗教対話を通して神様からの多くの祝福を分かち合えることを心より願っております。
(文 諸宗教対話委員会 委員長 ロッコビビアーノ神父)

6月に行われた堅信式 使命は与えられる その機会をのがさぬように

神戸中央教会・藤井寺教会

6月18日(日)10時、カトリック神戸中央教会で、前田万葉大司教とコンスタンス・コンスルタ神父、ブイంగా・ブレイズ神父により、コロナに明け暮れた日々からようやく解放され、久しぶりに日英合同のバイリンガルミサによる堅信式が行われた。

普段目にするのではないミトラを被りバクルスを持って入堂される前田大司教を迎えて、楕円形の陣を半円状に取り囲む19人の受堅者は、緊張した面持ちで臨んでいた。

前田大司教は式の中で受堅者に向けて言葉を送った。「堅信式は卒業式ではありません。キリストの証し人としてこれからの人生を歩む始業式のようなものです。まわりの人々を助け、互いに仕え合い、互いを大切にし合うことのできる関係を築くことで、イエス様を伝えていくという自覚を持って歩みましょう」。約250人の信徒に見守られ、式の終了後は祝賀会の



神戸中央教会

開始が大幅に遅れるほど大司教様を囲んでの記念撮影が行われた。

【主催者の感想】 対象者全員が無事にゆるしの秘跡を受けて受堅できたことは喜ばしいことではあります。反面教会学校の初聖体クラスで学んで以来、学びの機会がなかった中学・高校生生活は共同体のエアポケットであることが鮮明に浮かび上がりました。この時期の共同体への参加と迎え入れ方の工夫が急務であることが今後の大きな課題となりました。

【受堅者の感想】 堅信の準備会が始まった時、神様のことを何も知らないなど思った私たちが、聞いて学んでいく内に少しずつ理解できるようになり、日々の幸せを感謝できるようになりました。これからは神様と共に歩むことができまますようにと願っています。
(文 山野真美子)

6月25日(日)、前田万葉大司教とチョン・デイン・ハイ神父の共同司式で、合同堅信式が行われた。受堅者は10人(藤井寺7人・なみはや2人・住之江1人)。
前田万葉大司教はミサ説教で、堅信とはキリストの証人になる役割が与えられると話され、聖ペトロの取り次ぎを願いながら聖霊の秘跡と言われる堅信を受ける人々への恵みを祝し、その使命を生きるようにと、励ましとして「仕合わせのキリストの香や、ペトロ祭」「受堅者よともにあかしを、ペトロ祭」



藤井寺教会

という二つの句を詠まれた。キリストが弟子たちの、真つ先にペトロの足を洗い、互いに仕え合うようにとおっしゃったように、聖香油の香りがするようにならねばならない。キリストの香りがするようにならねばならないことを話された。日本語の「しあわせ」は、この仕え合う「仕合わせ」から生まれてきたと言われることと、その「しあわせ」は非常に聖書に近いということも紹介された。
【主催者の感想】 この日は藤井寺教会の保護聖人である聖ペトロのお祝いを兼ねて行われた。藤井寺教会の受堅者は、幼稚園で、また教会でお世話になったイエスのカリタス修道会のシスターと堅信式に向けて勉強会を行ってきた。
堅信式終了後、コロナ禍でできなかったパーティーに約100人が参加。ベトナム料理等で堅信式のお恵みを分かち合った。
【受堅者のことば】 私たちは、小さい時から洗礼のお恵みを受けて教会に親しんでいましたが、今堅信の秘跡のお恵みを受けられることができ、より一層信仰が強められました。いただいたお恵みに感謝して、これから自覚を持った一人前のカトリック信者としてがんばっていきたく思います。
(文 藤井寺教会 垣崎真奈美)

前編

元和大殉教って何？

江戸時代初期に起った徳川幕府によるキリシタン大迫害のうち、「長崎の元和大殉教」と「江戸の大殉教」は2022年から今年にかけて400年の節目を迎える。日本カトリック中央協議会、列聖推進委員会では、2022年9月10日〜23年12月4日にかけての15カ月を、「愛のあかし・元和の大殉教400年」として記念し、日本の教会にとって共通の遺産である殉教者の霊性に学び、ともに祈り、殉教者の生き方に倣う機運を高め、福音宣教の力にしようとしている。元和の大殉教とはどのような出来事だったのだろうか？

Q 元和の大殉教とは？

A 元和8(1622)年9月10日、長崎西坂の丘でキリシタン55人が、火刑・斬首によって殉教した事件。長崎や大村の牢につなげられていたキリシタンが刑場に引き出され、25人が火刑に、30人が斬首された。処刑されたのは、イエズス会司祭カロロ・スピノラはじめフランス人会やドミニコ会の宣教師と日本人木村セバスチャンなどのバテレン(修道会司祭)9人、諸修道会のイルマン(修道士)13人、指導的立場にあった信徒、宣教師に宿を貸した者だった。そのなかには、80歳の老婦や子ども6人も含まれていた。

殉教に際する立派な態度は世間を驚嘆させ、絵画にもなり、海外に伝わった。一方、江戸幕府の禁教政策をよりいっそう強化させることにもなった。

Q 元和の大殉教の原因は何？

A 直接の原因は平山常陳事件と呼ばれる出来事にあった。事件のあらましは、次のようだった。元和6(1620)年、マニラから鹿の皮を満載して

長崎に向かっていた、ドイツ船「アス平山常陳」を船長とする御朱印船が、平戸を基地にしていたイギリス、オランダ艦隊の三隻に拿捕された。平戸に連行された。

積荷の隙間に身を隠していた二人のスペイン人が見つかつた。この二人は、アウグスチノ会士ペトロ・デ・ズニガ、ドミニコ会士フローレスだった。取り調べに当たつた役人は、彼らが潜伏宣教師だと思いオランダ人の牢屋へ入れた後、長崎奉行長谷川権六と江戸幕府に使いを出した。

二人は、長谷川権六と平戸の松浦隆信(松浦の面前で取り調べを受けた。二人とも宣教師であることを認めず、あくまで商人だと言いつつ張つた。また、船乗りの命を救うために、関係者は二人が宣教師であると言わなかつたが、背教者トマス荒木が身分を明らかにしてしまつた。

日本に着いたばかりのドミニコ会のコリアド神父は、長崎にいた数人のスペイン人商人の頼みに応じて、日本人信徒の助けを得てフローレスを牢屋から救出しようとして試みた。しかし、

成功しないばかりか信徒までもが捕らわれてしまつた。さらに、計画にかかわる手紙も押収されてしまつた。コリアド神父は逃亡し日本から離れることができた。

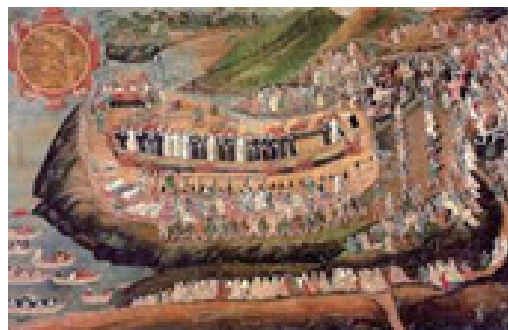
このことが將軍秀忠の耳に入り、彼は激怒し、捉えられていた宣教師や信徒を処刑するように命じた。

取り調べ開始から、過酷な拷問に耐えていた宣教師の二人だったが、1年4カ月後にズニガが自白し、フローレスも翌年の初夏に自白していた。キリシタンである平山常陳が、ルソンで商品の買い付け後、重大違反と心得ながらズニガとフローレスの要望を入れて日本潜行を助けた経緯も判明していた。

元和8(1622)年7月13日、長崎にて宣教師2人と船長ディアス平山常陳が火刑に、水夫13人が打ち首にされた。

この平山常陳事件を契機に、元和の大殉教が引き起こされ、キリシタン大迫害が開始された。

(後編に続く)



青少年委員会

青年と子どもの錬成会を終えて

8月11日〜13日のお盆真っ只中に、4年ぶりの青年と子どもの錬成会を開催した。

10人にも満たない青年たちで「久しぶりにやってやるぞ！」と2月に覚悟を決め、感覚の鈍りや人手不足、空白による青年同士の連携の難しさなどを何度も痛感しながら、そのたびに当日の「あの一体感」を胸に準備を進めてきた。小学4年生から毎年錬成会に参加していた実行委員長の「錬成会という場を帰ってきたくなるようなみんなにとって居心地のいい場所に感じて欲しい。みんなが誰かの居心地の良い人になってほしい」という思いを少しずつ増えてきたスタッフたちで「あーでもないこうでもない」と考えながらプログラムを考えた。そして迎えた当日、台風からは逃れたものの、実行委員長を含めて3人がコロナによって参加を諦める事態となった。今、文章を書いている時点でも悔しくて涙が出そうになる。そんな3人の思いを背負い、急遽実行委員長の代理を私が行うことになった。そんなドタバタな中で行われた錬成会だった。初参加の参加者やリーダーが多い中で、今年もやはり3日目のミサでテーマソングを歌った時に「あの一体感」を感じることができた。子どもたちの笑顔と歌声に包まれる「あの空間」が来年も私たち青年を動かす動力源であることは確か。子どもたちが帰ってくるような場所を毎年作り続けていきたいと強く思った。

(文 枚方教会 荒川奈々恵)

訃報



パウロ 藤原 昭神父(フランスシスコ会)は、9月4日、姫路聖マリア病院緩和ケア病棟で慢性腎不全のため帰天、79歳。兵庫県出身。

1979年、着衣。80年、初誓願。83年、荘厳誓願。86年、司祭叙階。司祭叙階

後、札幌北11条教会助任。釜ヶ崎「ふるさとの家」施設長、姫路聖マリア病院のチャプレンを務めた。貧しく小さくされた地域の人びとと親しく関わり、小さな人びとを大切にしている人だった。大阪釜ヶ崎(あいらん地域)でも初めのころから長年働いた。よく勉強する方で福音、本をよく読み、祈り、黙想して、それを生活に生かす証人でした。姫路に移ってから、さらに強くその生き方を証し周囲の方々にも認められていた。

2023. 10.15 Sun 12:30~16:00
St. Mary's Cathedral
大阪カトリック聖マリア大聖堂

INTERNATIONAL DAY 2023

外国人が暮らしやすい社会は、日本人にも暮らしやすい！
A society where foreign residents can live easily is likewise a society where Japanese people can easily live.

資料請求やお問い合わせは 教区本部事務局 総務課 管理部門 06-6941-9705

カトリック墓地 納骨堂・納骨所 使用者募集

大阪教区の信者の方のみがお申込みいただけます。詳細は資料をお送りさせていただくほか、インターネットでもご覧になれます。

資料請求やお問い合わせは 教区本部事務局 総務課 管理部門 06-6941-9705



司牧者がリレー形式で若者たちにぜひ読んでもらいたい書籍を紹介し、青年たちの読書感想文を掲載する連載。今回は、ジャンマリ・カゼンガ神父様(堺ブロック)が担当。

ジャンマリ・カゼンガ神父から
この一冊



『使徒的勧告 キリストは生きている』
教皇フランシスコ著、2019年発行、西日本出版社、税込1540円

私は2020年に青少年司牧委員会委員として任命されました。若者と関わり、これからも福音を伝えられることを嬉しく思います。先日のリスボンのワールドユースデーの閉幕に合わせて、ミサの中で教皇フランシスコは主の変容の福音から「輝く」「聞く」「恐れるな」という三つの動詞に基づいて若者にメッセージを伝えました。非常に心に響

く内容でしたので、よかったですら調べてみてください。

さて、今回それに関連して、私は教皇フランシスコの著書2冊お勧めしたいと思えます。1冊目は『使徒的勧告 キリストは生きている』です。その中で教皇は次のように言われています。「若者の皆さん。皆さんの青年期の最高のものをあきらめないでください。シエルトーの中から人生を見てはなりません。ソファを幸せと勘違いしたり、人生をずっと衝立(ついたて)の後ろで過ごしたりしてはなりません。捨てられた自動車のようなもの寂しい景色になってもいけません。動かない車になっ



『使徒的勧告 喜びに喜べ』
教皇フランシスコ著、2018年発行、西日本出版社、税込990円

二冊目の図書は、『使徒的勧告 喜びに喜べ』です。その中では「聖なる者となるのに、司教や、司祭、修道者になる必要はありません。それぞれが置かれている場で、日常の雑務を通して、愛をもって生き、自分に固有のあかしを示すことで聖なる者となるよう、私たち皆が呼ばれているのです。」(『使徒的勧告 喜びに喜べ』14)と述べられています。どちらの本も教皇様の素晴らしい言葉に触れることができ、若者がこれから生きていく上での指針を見出すことが出来る本だと思いますので是非読んでみて欲しいと思います。

次回は、Sr石川治美(はるみ) 大阪聖ヨゼフ宣教師修女会です。

若者の読書感想文募集



- ① 年齢は35歳まで。カトリック信者、もしくはカトリック教会と何らかの関係がある方(カトリック校や諸施設の在籍者又は卒業生、保護者、関係者など)。
- ② 感想は400字程度。氏名、所属、顔写真(自由)を添えてメール(jiho@osaka.catholic.jp)か郵便にて送付(掲載にあたり編集する場合あり)。
- ③ 感想を送ってください。方全員に教区オリジナルしおり(4枚組)を進呈。たくさんのご投稿をお待ちしています。



ラジオ 信仰の時間

ヒロシマの記憶

〈8月6日放送〉

ヌノ・リマ神父
(玉造教会主任)

わたしの中で日本に関する一番古い記憶は小学生の頃でした。

当時、ポルトガルでもソニーやトヨタ自動車は人気メーカーでしたが、それが日本のメーカーだと分かったのはもう少し大きくなってからのことです。

それより古い記憶は広島についてのものです。小学3年生のころに流行っていたポルトガルのポップソングです。そのタイトルは「Hiroxima, meu amor」(ヒロシマ・モナムール)でした。アラン・レネ監督のHiroshima mon amour、日本のタイトルは『二十四時間の情事』の映画からインスピレーションを受けたポップソングです。

時は1982年でした。20世紀の80年代は、冷戦時代の最中にありました。この時期、核の脅威が非常に高まっており、世界は核戦争の可能性に直面していました。ポルトガルでも、平和運動が広がり、核兵器廃絶を求める声が高まっていた。

小学3年生のころに流行っていたこの曲は、わたしが広島原爆による、悲劇を知るきっかけになった。原爆の悲劇の範囲とその深さは小学生のわたしには、あまり理解できなかったが、それ以前の戦争で使われたものよりも、はるかに力の強い爆弾だと、なんと

なく分かった。

数年後、日本に来る前に、今も記憶に残っている本を読んだ。戦前から日本で働いていたペドロ・アルペ神父様(イエズス会)の伝記だった。広島で原爆を体験した神父様の言葉は印象深かった。

アルペ神父様は、1907年にスペインのバスク地方で生まれた。大学は医学部だったが、19歳でイエズス会に入会し、1938年に日本に派遣された。そして、1945年8月6日、爆心地から4.5キロ離れていた広島にあった修道院で被爆する。彼は、すぐに事の重大さに気づいて倒れていた家具などを片付けて、けが人の救護に当たった。医学を勉強していた経験を生かし、ほとんど何の薬もない中で、手当てしたのだ。

ペドロ・アルペ神父様は広島についてこう書き残している。

「時計が止まった。天井やガラスの破片や梁がいまにも落ちて来そうであった。耳をつんざくような轟音がやんだ。私は床から身を起し、目の前にまだ吊り下がっている時計を見たが、時計は動いてはいなかった。朝の8時15分であった。あの止まってしまった時計が私には象徴のように見えた。広島は私たちの心に突き刺さっている。時間とは関係がない。不動の永遠に属している。悲しい永遠!

人間のあのような悲劇が絶えず存在するなんて! 人間の? いやそうではない、非人間的な悲劇だ。何十万人の命が無差別に奪われたからというだけでなく、

自分自身の技術を誇りたいための人間の自己破壊があり得るという前兆として、人類を脅かし続けているからである。時間はなんと多くのことを教えてくれることか! 歴史は人生の先生である。しかしそれは歴史を解釈できるという条件においてである。

広島(せんこう)の閃光は鮮明に残っている。人類にいつも突きつけられた剣のように。

このようにペドロ・アルペ神父様は、広島原爆を振りかえる。78年たった今も、広島平和記念資料館で同じような止まった時計が展示されている。戦争の悲惨さと平和の尊さを訴え続けています。戦争のない平和な世界を築き上げるには、私たち一人ひとりが常に平和の尊さを認識し、戦争がいかに多くの悲しみをもたらすかを、語り継いでいかなければなりません。

ウクライナの戦争などの世界的不安がある中で、歴史から深く学ぶべきことがたくさんあると思えます。



毎週日曜日 5:50~6:00AM 放送
10月担当: 和越 敏神父
ABCラジオ(朝日放送) AM1008/FM93.3
スマホアプリのradikoでも聴けます。

ガラシア健康だより

介護予防 ～介護をする人受ける人へ～

大阪府箕面市に本拠を置く医療法人ガラシア会から、全6回の介護予防をテーマにした健康情報をお届けさせていただきます。皆さまの健康への一助になれば幸いです。

第3回 「変形性膝関節症の予防」

変形性膝関節症は65歳以上に55%と高く、潜在的な患者数は3000万人以上と推定されており、国民病の一つと言われています。変形性膝関節症は膝関節にある軟骨がすり減り、進行すると関節を覆う滑膜の炎症や骨同士のごすり合わせにより強い痛みが生じ、手術を必要とする場合もあります。膝の痛みによる歩行障害を予防するために、今回は正しいウォーキング方法についてお話します。

1. ウォーキングの効果

変形性膝関節症において、運動不足による筋力低下は、症状の発症および進行の要因となります。ウォーキングは筋肉量の増大と体重コントロールが期待でき、変形性膝関節の予防・改善に繋がります。また、骨に衝撃が与えられ、骨の強度・密度の増加により骨粗鬆症の効果も期待でき、骨折や介護予防にも繋がります。

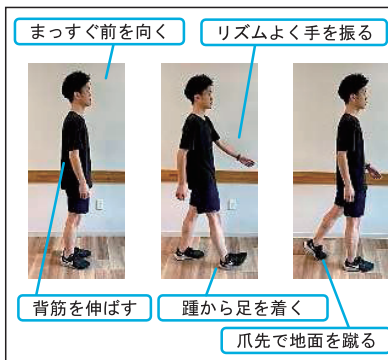
2. ウォーキング前のトレーニング

- ①椅子に座り膝をまっすぐに伸ばす
- ②5秒間保持し、ゆっくり戻す
- ③片足5回から10回繰り返す
- ④太ももの筋肉を意識



3. 膝の負担をやわらげる歩き方

*ウォーキングの時間や歩数について、膝の痛みに変動があるため、あえて決めないことをおすすめします。



変形性膝関節症は様々な原因によって進行していく病気です。今回は、ウォーキングによる予防方法をお伝えしました。ご自身の骨・関節の状態の把握も大切ですので、これを機に各種検査を受けてみてはいかがでしょうか。

ご自身の関節の状態を知っていますか？

変形性関節症については、画像検査（レントゲン検査、CT、MRIなど）で関節の隙間や変形を診る事で症状の進行度合いを知る事ができます。状態を知る事で、今、膝に対して、どのようなことをしておくか良いかが分かります。心配な方は整形外科を受診してみてください。

ガラシア病院地域医療連携室
お問い合わせ：072-729-2345



葉が掲げられている。このみ言葉を胸に、他者に尽くして生きる「明星紳士」が目標とする人物像である。今回、ルワンダを中心に、義肢の提供によって他者を支えるルダシグワ夫妻の生き方を通じて、創立125周年の節目に、建学の精神を再確認したい、というのが、今回の講演会の目的である。

ガテラさんの言葉

7月10日(月)、全校生徒と教職員・保護者・一般の約1700人がマリアンホール(講堂)に集まり、125周年記念講演が開催された。マリア会を母体とするカトリック学校である大阪明星学園のすべての教室には、「地の塩・世の光」のみ言

を真美さんが日本語に翻訳しながら、また真美さん自身の言葉を通して講演は進む。「今のルワンダに民族の違いはありません」とはガテラさんの言葉。同時に、かつての統治時代に、意図的に形成された差別と分断の歴史が紐解かれた。ジェ

野中豊彦 校長
「今より世界をもっとよくなりたい。」「何かを変えたい。」「そんな思いで、おふたりが、変化や挑戦を恐れず、軽やかに未知の世界を歩んでおられる姿に触れ

て、生徒たちにとっては「ああ、こういう生き方もできるのだな」と自身の視野を広げるよい機会になったと思えます。

◆生徒の声(感想)

おふたりはルワンダ内戦後の悲劇を見て何を感じたのだろうか。想像がつかないし想像するべきではないことだ。ただその思いがあつて今の人生があると言える。今後一生のうちにそういった出来事はあるだろうか。そこまで本気になるだろうか。まだ頭の中でまとまっていけない。取り留めもなく考えてしまう。

マリアンホールでの

全体会の後には、宗教科教室で希望生徒の集う交流の時間が設けられた。40人ほどの生徒



ルダシグワ夫妻の活動「ムリンディ・ジャパンワンラブ・プロジェクト」に生徒会、「小鳩会」から目録が手渡された。

が集まり、講演会の熱気そのままに、間近で「今後のルワンダに必要なものは何か」など、さまざまな質問を投げかけていた。
*本学園では、カリタスをはじめ、さまざまな方面に生徒募金を届ける「小鳩会」活動を続けている。(文 大阪明星学園 宗教部)

普遍的価値のある共生社会をつくりたい

「生きる」—難民移住者

アフガニスタン人のイサさん(仮名)は、汚れた服を着て東京入国管理局の待ち合わせ場所に現れました。野宿していたと言います。イサさんは来日直後からアフガニスタン人の雇い主にパスポートと在留カードを取り上げられ、コンテナの中に住まわされました。仕事は中古車の解体ですが、いつも監視され会社の敷地から自由に出られず、仕事で怪我をしても病院へ連れて行くことさえしてもらえません。囚われた生活のまま1年近くが過ぎたある夜、



イサさんは思い切つて逃げだし、同胞に助けを求めました。イサさんを救出した人と合流した私は入国管理局に同行してビザ更新手続きを進め、関東方面で支援してくれる団体を探してつなぐことができました。アフガニスタン人の相談は各地から寄せられます。G県では、アフガニスタン人女性が夫から暴

行を受けて病院に担ぎ込まれました。病院の人が警察に通報しましたが、その後妻は本国へ連れ戻されてしまったそうです。M県では、アフガニスタン人の女子中学生が学校に通えず、小学生と乳幼児の弟や妹たちの世話をさせられており、それを知った日本人が児童相談所に通報しました。アフガニスタン人同士の民族差別や、女性または子どもへの虐待には目を覆いたくなる事例も多です。そんなアフガニスタン人、特に女性たちに関わると、私には日本社会全体が駆け込み寺に見えてくるのです。ある父親は「日本でなければ進学を希望する娘など石油で焼き殺すところだ」と言いました。これが男女平等ランキング世界最下位の国の実態なのでしよう。私は縁あって日本に渡つてこられたアフガニスタン女性たちが、社会に守られて恐怖心を抱くことなく暮らせるようになってほしいと願っています。ただ、そのためには女性たちを社会から孤立させないようにする必要があります。容易に近づけないことも多く難しいのですが、知恵を絞って普遍的価値のある共生社会を作つてゆきたいと思えます。

(文 シナピス事務局
ピスカルド篤子)



ヨハネ1・46

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

教区委員会主催

信仰養成連続講座◆カテキズムの第2編「キリスト教の神秘を祝う」
日時 10/26(木)18:30~20:00
講師 酒井俊弘補佐司教
場所 サクラ ファミリア
YouTube配信あり
問 ☎06-6941-9700
主催 使徒職養成委員会

サクラ ファミリア主催

松本信愛神父講演会◆いのちの終わり近くの問題について考える
日時 11/18(土)14:00~16:00
申込み 不要

聞かせてください 神さまと出会った時のこと~エマオへの道で~◆大阪教区で働く司祭・修道者ご自身の体験をきく
日時 10/12(木)18:00~19:30(夜の部)・10/13(金)10:30~12:00(昼の部)
おはなし 清川泰司神父(高槻教会)

コレーン神父と学ぶ聖書◆「使徒パウロのフィリピの教会への手紙」(9~12月開講)
日時 10/16(月)・11/13(月)・12/11(月)
参加費 ¥500
申込み 必要

和田幹男神父◆聖書研究講座『主のしもべイエス』
日時 第2(水)10:30~12:00

和田幹男神父◆新約聖書ギリシア語(初級)
日時 10/16・23(月)17:00~18:30

「新生の明日を求めて」読書会◆大阪教区のシノダリティ(ともに歩む)の原点を確認しよう
日時 毎週(月)(第2は休み)14:00~15:30

聖書通読会◆聖書のダイナミックな流れが感じられます
日時 毎週(木)10:00~11:30

「YOUCAT(青年向けカテキズム)」勉強会◆老いも若きも、キリスト教を理解しよう
日時 毎週(金)19:00~20:00

担当 松浦信行神父

祈りのよる◆灯りをかこみ、ともに祈る静かな時間を
日時 毎月17日 19:00~19:30

問 サクラ ファミリア ☎06-6225-8871
✉f.sacra@osaka.catholic.jp

結婚準備講座

夙川教会
日時 次回10/7(土)~10/28(土)4回 16:30~18:00
参加費 ¥5,000(2名)
問 ☎0798-22-1649

六甲教会
日時 2024年2/4~25(日)4回 14:00~16:00
参加費 ¥5,000(2名)
問 ☎078-851-2846
✉renraku@rokko-catholic.jp
※事前要問合せ(年2回)

黙想会

宝塚黙想の家

◆日帰り黙想会
日時 10/26(木)・10/27(金)10:00~15:30
指導 染野治雄神父(10/26)山内十束神父(10/27)
参加費 ¥3,500

◆一泊黙想会
日時 10/20(金)17:00~10/21(土)15:30
指導 染野治雄神父
参加費 ¥9,000

◆聖地エルサレムを学ぶ
日時 第2(木)10:00~12:00
指導 笹田六合豊修道士
参加費 ¥1,000

◆カトリック教会のカテキズム
日時 第1・3(水)10:00~12:00
指導 染野治雄神父
参加費 ¥1,000

◆祈りを深めるための聖書の基本
日時 10/4(水)10:00~12:00
指導 山内十束神父
参加費 ¥1,000

問 宝塚黙想の家 ☎0797-84-3111

大阪聖ヨゼフ宣教修道女会◆召命黙想会 来て、見なさい。ともに！
日時 10/14(土)10:00~15:30
場所 大阪聖ヨゼフ宣教修道女会 園田修道院 聖家族共同体
指導 和越 敏神父(コンベンツァル聖フランシスコ修道会)
参加費 ¥500
問 ☎06-6491-7158

奉献生活に関心のある独身女性(20~30代までのカトリック信徒)*申し込み期間10/7まで

講座・研修会

講座 本田哲郎神父◆小さくされた人々のための福音
日時 第3(金)10:00
場所 神戸学生青年センター
参加費 ¥1,000
主催 神戸国際支縁機構
問 岩村 ☎070-5045-7127

兵庫・生と死を考える会 月例会◆教会の活動から見た死生観

講師 英 隆一郎神父(六甲教会主任司祭)
日時 6/18(日)13:30~15:00
場所 六甲教会・イグナチオホール
参加費 一般:¥700 会員:¥500
主催 兵庫・生と死を考える会
問 ☎078-805-5306

日本カテキスタ会◆第40回信仰養成講座「現代世界憲章」より「家庭の尊さ」
講師 高見三明名誉大司教(講話1)ボナツィ・アンドレア神父(講話2)中村倫明大司教(講話3)
日時 10/26(木)10:00~11:30(カテキズム講座)13:00~(講話1)15:30~(講話2)・10/27(金)10:00~(講話3)派遣のミサ12:20~
場所 サクラ ファミリア
参加費 カテキズムのみ¥500(資料代として)養成講座両日参加3,000円・26日のみ2,000円・27日のみ1,500円
問 栗山 ☎090-3865-8010
✉nckkate@gmail.com

大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える15~35歳までの若者の集い
日時 第4(土)14:00~16:00
場所 大阪YCWセンター(またはZoom)
問 レネ神父・水元 ☎072-232-8063
✉osakaycw@gmail.com
HPhttp://www.ycw.jp/

集い

要約筆記グループ「エフファタ！」練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア
対象 要約筆記に関心のある方。フリーソフトcaptiOnlineを使いパソコンまたはスマホで練習します。
日時 毎月第2(水)10:00~12:00
場所 教区本部事務局1階会議室
主催 要約筆記グループ「エフファタ！」

精神・発達症(障害)者自助グループ◆オリーブの集い
守秘義務と分かち合い
いつ来てもウェルカム

当日キャンセルOK
日時 毎月第3(日)14:00~16:00
場所 姫里集会所
参加費 無料(12月のクリスマス会だけ実費)
申込 吉川まで
問 ☎078-583-2525
✉yassan.yoshikawa@nifty.com

カ障連大阪フレンドリー◆点字部の勉強会

対象 パソコン点字に関心のあるかた、視覚障がい者の情報共有に関心のある方
日時 奇数月・第2(火)13:30~15:00 偶数月・第2(火)14:00~16:00
場所 姫里集会所(奇数月)北須磨教会(偶数月)
申込 笠松まで
問 ☎090-5661-4324 ☎072-722-0271
✉kasamatsu-yukisan@iris.eonet.ne.jp

マザー・テレサ共労者の集い

日時 第1(土)14:00第4
場所 大阪梅田教会
問 高塚 ☎06-6921-0693

日時 第4(水)13:00~15:00

場所 古古川教会
問 佐藤 ☎079-435-1157
姫路・六甲教会はコロナ禍が収まり次第再開

宣教師ザビエルを支えた日本人びと

日時 10/22(日)11:00~12:30
場所 カトリック宝塚教会 聖堂
申込 不要どなたでも参加可
問 カトリック宝塚教会 宣教研修委員会 ☎0797-72-4628
交通アクセスはカトリック宝塚教会サイトをご覧ください。
HPtakarazuka.org

河内キリシタン祈念祭

日時 10/21(土)10:00~12:00(受付開始9:30)
場所 カトリック大東教会(JR学研都市線野崎駅下車)
内容 1部「カトリック信者が河内キリシタンから学ぶこと」竹延真治神父・典礼聖歌アンサンブルによる聖歌/2部祈念ミサ(司式:前田万葉大司教)/ミサ後分かち合いあり。弁当持参
問 中田・中川 ☎072-876-5434
主催 しろきたブロック

大阪教区のカトリック病院 ガラシア病院
特徴的な医療
ホスピス(緩和ケア)リハビリ・神経内科 肝臓内科・循環器内科
医療法人ガラシア会
理事長 前田万葉 大司教
チャレン 松本信愛 神父
〒562-8567 箕面市粟生間谷西 6-14-1
☎072-729-2345
医療法人ガラシア会

ひとりで悩まないで~私たちに聴かせてください~
カトリック大阪大司教区
ハラスメント相談窓口
※委員会はハラスメント全般を視野に入れることになりました。そのため、名称変更します。
電話番号:06-6941-9718
相談窓口受付時間
月・火・金曜日(祝日を除く)
午前10時~午後4時
あなたの悩みを親身になって受け止めます。
秘密は必ず守られます。

10月司教予定
(右記「行事等日程」以外)
・10/8 尼崎B堅信式(+S)
・10/12~24 サンティアゴ巡礼(+S)
・10/21 かわちキリシタン祈年祭(+M)
・10/22 高槻教会堅信式(+M)
・10/28~31 元和の大殉教 巡礼(+M)
+M=前田万葉大司教
+S=酒井俊弘補佐司教

行事等日程
10月
5 木 [常任司教委員会]
9 月 大阪高松大司教区 設立式・着座式
15 日 INTERNATIONAL DAY
22 日 世界宣教の日(献金)
25 水 10時半 教区月修
29 日 教区典礼研修会
11月
1 水 諸聖人
2 木 死者の日 [常任司教委員会]
3 金 11時 教区納骨者および死者祈念ミサ(カテドラル)
8 水 10時 顧問会

案内・報告
2023年度秋人事異動
「11月1日付」※(内は現任地)
▽朴起徳神父(日本語研修)は宝塚教会主任
▽グエンシン サック神父(宝塚教会主任)はアメリカ留学
主日ミサ時間変更
【単本教会】▽9時
【新宮教会】▽11時半
※変更は10月第一日曜日(10月8日)でミサ時間変更

編集後記
聖母被昇天祭の日、台風直撃でミサが中止、意気消沈する私に、台風級のニュースが飛び込んできました。大阪教区と高松教区を統合して新しい大司教区を基盤にするとのことでした。▼私にとってこの体験は二度目です。司祭になる前に勤めていたところは、三つが合併しました。同じ部に部長が三人、課長も三人、誰が生き残るの?一つになり切れない苦しみを味わいました。▼今年、夏の終わりに、元同僚たちと飲み会。「あのころはしんどかったけど、一緒になってよかったな」と夫婦のような会話を交わしました。▼異質なものが出会って一緒に歩むためには、互いに相手を尊敬することが欠かせません。違いが豊かさを産みだしますように。
(広報委員会 川柳裕明)

【お詫びと訂正】
本紙9月号に記載誤りがありました。
1面 すべてのいのちを守るための基金 (誤)1千4百50万円→(正)百45万円
1面 【夙川ブロック堅信式】 (誤)【受験者】→(正)【受堅者】
6面 「精神・発達症(障害)者自助 グループ◆オリーブの集い」 (誤)参加費¥100→(正)無料(12月のクリスマス会だけ実費)
お詫びし訂正します。(広報委員会)